

オーハシテクニカ

7628 東証 1 部

2015 年 8 月 7 日 (金)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
佐藤 譲

■ 今期も増収増益が続く見通し、4 期連続の増配を予定

オーハシテクニカ<7628>は独立系の自動車部品メーカーで、約 400 社の日系自動車・車載機器メーカーに納入している。グループ内製造子会社での対応（ファクトリー機能）と、協力企業と協業で行う（ファブレス機能）体制を構築しており、顧客ニーズに対応した製品を最適な品質、価格で迅速に提供できることを強みとしている。このため、営業利益率は約 10% と自動車部品業界の中では高収益率を誇る。

2015 年 3 月期の連結業績は売上高が前期比 1.8% 増の 39,849 百万円、営業利益が同 10.2% 増の 3,993 百万円となり、営業利益は 2 期連続で過去最高を更新した。主要顧客である日系自動車大手の生産台数は微減となったものの、新規受注の獲得や円安効果によって売上高は増収に、また、営業利益は原価低減や業務効率の向上、円安効果などにより 2 ケタ増益となった。

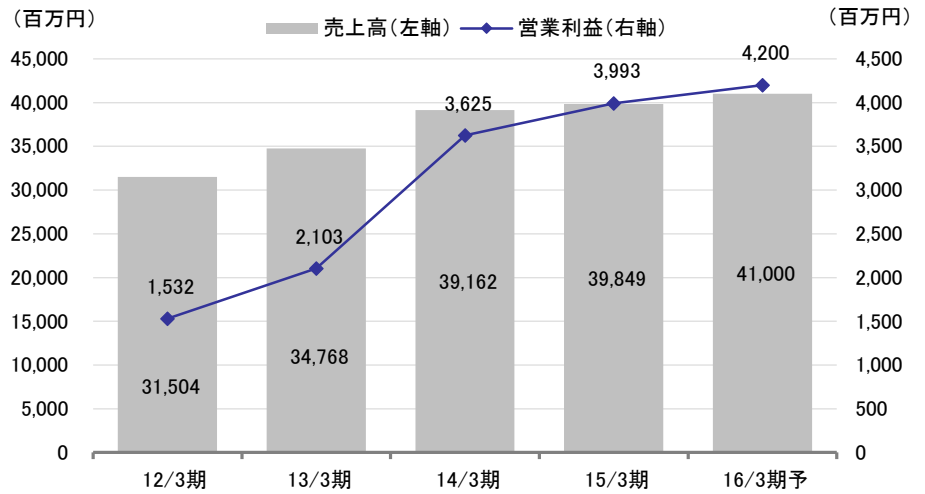
2016 年 3 月期は売上高が前期比 2.9% 増の 41,000 百万円、営業利益が同 5.2% 増の 4,200 百万円と増収増益が続く見通し。国内自動車生産の低迷が続いているものの、北米市場が堅調なことに加えて、前期低迷した ASEAN 市場の回復や円安効果が寄与する。為替の前提は 1 ドル 115 円（前期 1 ドル 105.85 円）で、売上高は約 1,000 百万円、営業利益は約 100 百万円の増収増益要因となる。また、同社独自技術である圧入プロジェクション接合技術を用いた新製品の採用も進んでおり、収益への貢献が期待される。

同社は今後もグローバル事業体制の強化や、独自技術の開発などによるファクトリー機能の強化、資本参加も含めたファブレス機能の強化などを推進していく方針で、売上高の拡大とともに収益性の向上も進めていく戦略だ。なお、株主還元としては配当性向で 20% 水準を目安に考えており、2016 年 3 月期の 1 株当たり配当金は、前期比 5 円増の 38.0 円（配当性向 20.7%）と 4 期連続の増配を予定している。また、全体の資本政策の中で自己株取得についても、機会があれば検討していく方針だ。

■ Check Point

- ・ 営業利益率は自動車部品業界トップクラス
- ・ 3 期連続の増収増益、2 期連続で過去最高益を更新
- ・ 株価は 1 年で 1.5 倍程度上昇、引き続き安定成長企業として注目

連結業績の推移



■ 事業概要

営業利益率は自動車部品業界トップクラス

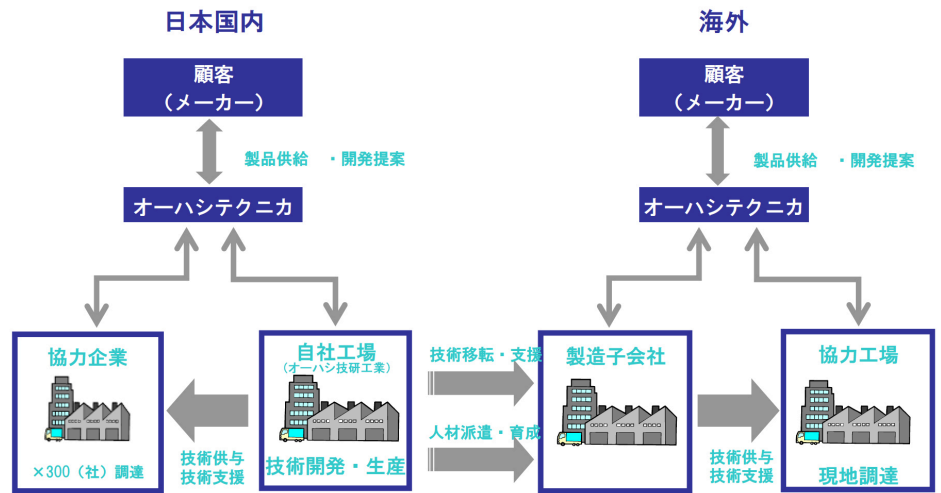
独立系の自動車関連部品メーカーで、売上高の約 99% を自動車用のエンジン・ミッション関連部品、車体組立用部品、ブレーキ関連部品などで占める。また、売上高の約 2 割は国内外の子会社が製造しており（ファクトリー機能）、残り約 8 割を約 300 社の協力会社との協業（ファブレス機能）により、顧客に販売する「ファブレス&ファクトリー」の事業体制を構築している。

同社の強みは顧客企業の新車やモデルチェンジの開発段階で発生する様々なニーズを迅速に把握するとともに、製品の企画・設計・開発を行い、自社製造子会社や協力企業の中から最適な品質、コストで提供できる供給先をピックアップして、顧客の VA・VE 活動に貢献する提案ができるコンサルティング型の営業を行っていることにある。

同社の営業利益率は約 10% と自動車部品業界の中ではトップクラスに位置するが、これはこうした付加価値の高い営業活動とデリバリー体制まで含めた総合的なサービス価値が顧客から評価されていることが要因と考えられる。

2015 年 8 月 7 日 (金)

ファクトリー & ファブレスの事業形態図



出所：会社資料よりフィスコ作成

生産子会社は国内に 1 社、海外に 6 社（アメリカ 1、中国 3、タイ 2）となっており、また、販売は海外に 8 社（アメリカ 1、中国 3、タイ 1、メキシコ 1、英国 1、台湾 1）で展開している。このうち、台湾子会社は 2015 年 4 月に新たに設立した会社で、主に台湾の現地企業から製品を調達し、欧米販売向けに販売する調達拠点としての機能を果たしていく。従来も台湾企業からは英、米販売が直接調達していたが、取引量が増加してきたことから、台湾に販売を設立し、窓口を一本化することにした。2015 年秋より稼働を開始する予定となっている。その他、持分法適用関連会社として、2014 年 11 月より (株) テーケーが加わっている。(株) テーケーは圧入プロジェクション接合技術※の共同開発先で、特許も共同で出願している関係にある。

※ 圧入プロジェクション接合技術・・・溶接技術の一種で、加工対象部材に圧力を加えて、電極で通電して圧力と抵抗発熱で異素材の部品を接合する技術。自動車のトランスミッション部分やエンジン制御装置部品など強度が求められる部位において、「必要とされる核心部分だけ高い強度を保持」できる部品を「簡素な製造工程」で量産できるというのが特徴。従来の部品と同程度の強度を保ちながら、軽量化やコストダウンを実現できる生産技術として注目されている

子会社一覧

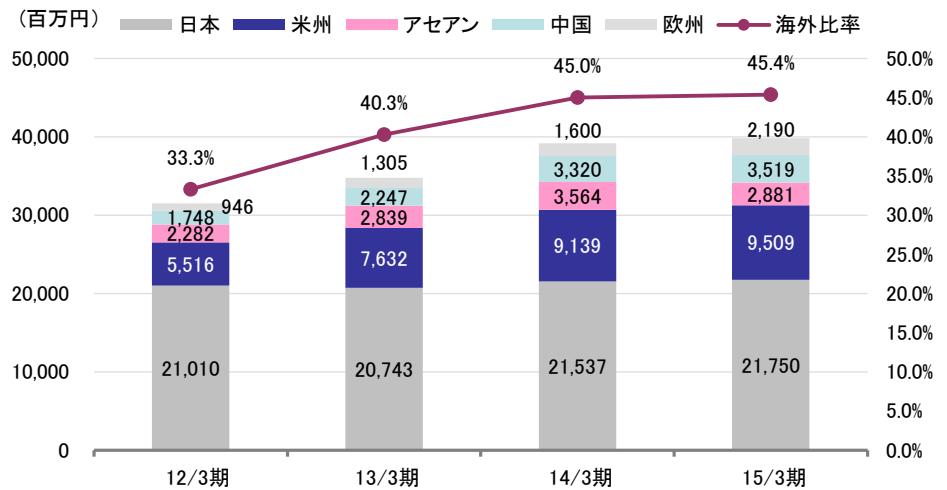
会社名 (連結子会社)	国	出資比率	事業内容	詳細
オーハシ技研工業	日本	100.0%	自動車関連 - 製造	精密冷間鍛造プレス部品、精密冷間圧造部品、精密切削・研削部品
OHASHI TECHNICA U.S.A	米国	100.0%	自動車関連 - 販売	自動車関連部品の販売
OHASHI TECHNICA U.S.A MANUFACTURING	米国	100.0%	自動車関連 - 製造	冷間圧造部品 精密切削・研削部品
OHASHI TECHNICA MEXICO	メキシコ	100.0%	自動車関連 - 販売	自動車関連部品の販売
OHASHI TECHNICA UK,	英国	100.0%	自動車関連 - 販売	自動車関連部品の販売
OHASHI TECHNICA (THAILAND)	タイ	100.0%	自動車関連 - 製造・販売	精密切削・研削部品
OHASHI SATO(THAILAND)	タイ	60.0%	自動車関連 - 製造	冷間圧造部品
大橋精密件(上海)	中国	100.0%	自動車関連 - 販売	自動車関連部品の販売
大橋精密件製造(広州)	中国	100.0%	自動車関連 - 製造	冷間圧造部品
広州大中精密件	中国	70.0%	自動車関連 - 製造・販売	精密プレス部品
大橋精密電子(上海)	中国	100.0%	その他関連 - 製造・販売	携帯電話用ヒンジ、ゲーム機用ヒンジ
台湾大橋精密	台湾	100.0%	自動車関連 - 販売	ナット類、カラー・ピン類、特殊品
(持分適用関連会社)				
テーケー	日本	33.8%	自動車関連 - 製造・販売	

出所：会社資料

他に、国内では物流子会社のオーハシロジスティックスがある。

海外売上比率は年々上昇傾向にあり、2015 年 3 月期は 45.4% に達している。このうち、米州が 23.9% と約半分を占めており、次いで中国が 8.8%、ASEAN が 7.2%、欧州が 5.5% となっている。また、海外売上高のうち約 4 分の 1 は日本からの輸出となっており、残りが現地子会社での製造及び海外協力企業からの仕入販売となっている。なお、同社の顧客は日系自動車メーカー及び車載機器メーカー約 400 社となり、海外についても現地日系企業が顧客となっている。ここ数年は上位ランキングも大きな変動はなく、偏りなく各メーカーに納入している。

地域別売上高



国内における主要取引先上位 10 社

順位	11/3 期	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期
1	日野自動車	日野自動車	日野自動車	日野自動車	日野自動車
2	デンソー	デンソー	デンソー	デンソー	本田技研工業
3	本田技研工業	本田技研工業	本田技研工業	本田技研工業	デンソー
4	日産自動車	日産自動車	日産自動車	トヨタ自動車	いすゞ自動車
5	アイシン精機	三菱ふそう TB	トヨタ自動車	いすゞ自動車	トヨタ自動車
6	トヨタ自動車	アイシン精機	アイシン精機	日産自動車	武部鉄工所
7	日立 AS	トヨタ自動車	いすゞ自動車	三菱ふそう TB	日産自動車
8	三菱ふそう TB	いすゞ自動車	三菱ふそう TB	武部鉄工所	三菱ふそう TB
9	いすゞ自動車	日立 AS	武部鉄工所	アイシン精機	アイシン精機
10	テイ・エステック	武部鉄工所	日立 AS	日立 AS	三菱電機

出所：会社資料

■ 業績動向

3 期連続の増収増益、2 期連続で過去最高益を更新

(1) 2015 年 3 月期連結業績について

2015 年 3 月期の連結業績は売上高が前期比 1.8% 増の 39,849 百万円、営業利益が同 10.2% 増の 3,993 百万円、経常利益が同 11.5% 増の 4,176 百万円、当期純利益が同 18.3% 増の 2,710 百万円となり、2 月に上方修正した会社計画とほぼ同水準で着地した。3 期連続の増収増益となり、営業利益、経常利益、当期純利益については 2 期連続で過去最高を更新した。

同社の主力顧客における自動車生産台数は低調だったものの、新規受注の獲得や円安効果で増収を維持した。また、営業利益率は原価低減や業務効率の向上が進んだほか、円安効果による海外子会社の利益増なども寄与し、前期比 0.7 ポイント上昇の 10.0% と連結決算開示（1999 年 3 月期）以降では初めて 10% 台に乗せている。

2015 年 8 月 7 日 (金)

2015 年 3 月期連結業績

(単位：百万円)

	14/3 期		15/3 期				
	実績	対売上比	会社計画	実績	対売上比	前期比	計画比
売上高	39,162	-	39,500	39,849	-	1.8%	0.9%
売上総利益	8,984	22.9%	-0	9,497	23.8%	5.7%	-
販管費	5,359	13.7%	-0	5,504	13.8%	2.7%	-
営業利益	3,625	9.3%	3,950	3,993	10.0%	10.2%	1.1%
(金融収支)	47	-	-	64	-	-	-
経常利益	3,746	9.6%	4,100	4,176	10.5%	11.5%	1.9%
特別損益	-60	-	-	2	-	-	-
当期純利益	2,291	5.9%	2,700	2,710	6.8%	18.3%	0.4%

注：会社計画は 2015 年 2 月時点

セグメント別業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率	
	14/3 期	15/3 期	前期比	14/3 期	15/3 期	前期比	14/3 期	15/3 期
日本	21,537	21,750	1.0%	1,836	2,037	10.9%	8.5%	9.4%
米州	9,139	9,509	4.0%	869	975	12.2%	9.5%	10.3%
アセアン	3,564	2,881	-19.2%	470	345	-26.5%	13.2%	12.0%
中国	3,320	3,519	8.0%	402	505	25.4%	12.1%	14.4%
欧州	1,600	2,190	38.8%	100	209	108.9%	6.3%	9.5%
(内部調整)				(54)	(79)			
合計	39,162	39,849	1.8%	3,625	3,993	10.2%	9.3%	10.0%

(期中平均、対円)

	為替レート		
	14/3 期	15/3 期	前期比
米ドル	97.65	105.85	8.4%
タイバーツ	3.18	3.26	2.5%
ポンド	152.7	174.21	14.1%
中国元	15.77	17.23	9.3%
メキシコペソ	7.66	7.96	3.9%

売上高を地域別で見ると、国内売上高は前期比 1.0% 増の 21,750 百万円となった。自動車メーカーの生産台数は減少したものの、新規受注の獲得などでカバーして増収となった。また、海外売上高は前期比 2.7% 増の 18,099 百万円となった。地域別では北米自動車市場が堅調に推移した米州が前期比 4.0% 増となったほか、中国が同 8.0% 増、欧州が同 38.8% 増とそれぞれ新規受注の獲得などにより売上高を伸ばした。一方、ASEAN は自動車生産の低迷が影響して、前期比 19.2% 減と唯一減収となった。

営業利益の地域別動向を見ると、国内が前期比 10.9% 増となったほか、米州が同 12.2% 増、中国が同 25.4% 増、欧州が同 108.9% 増となり、ASEAN を除くすべての地域で増益となった。国内は原価低減や間接部門の生産性向上などが寄与した。2015 年 3 月期は、子会社のオーハシ技研工業(株)において、自動車用ステアリング部品の冷間鍛造※による商品化に成功している。また、米国子会社では切削加工設備を新たに導入し、現地生産対応力をさらに強化したことなどが増収増益につながった。

なお、為替変動による業績への影響額は、売上高で 1,226 百万円、営業利益で 155 百万円の増額要因となった。

※ 冷間鍛造・・・金属を塑性加工する加工方法の一種で、常温下で「鍛造」する加工法を「冷間鍛造」と呼ぶ(高温下で行う鍛造を熱間鍛造と呼ぶ)。冷間鍛造のメリットは加工時間が短く、一体加工も可能となり、歩留まりの向上や部品点数の削減によるコストの大幅な削減が可能にある。

自己資本比率が上昇、無借金経営と財務内容の良化傾向が続く

(2) 財務状況

財務状況を見ると、2015 年 3 月期末の総資産は前期末比 3,339 百万円増の 34,891 百万円となった。収益の拡大に伴い現預金や在庫が増加したほか、国内外の設備投資増による有形固定資産の増加が主因となっている。

一方、負債は前期末比 56 百万円増の 11,145 百万円と前期並みとなり、純資産が同 3,282 百万円増の 23,745 百万円となった。利益剰余金の増加に加えて、円安進展に伴う為替換算調整勘定の増加が主因となっている。なお、期中に自己株式の取得 (88 万株、804 百万円) を実施している。無借金経営が続いているほか、自己資本比率も前期末の 63.6% から 66.9% に上昇しており、財務内容の良化傾向が続いている。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	14/3 期	15/3 期	増減額	コメント
流動資産	23,815	26,785	+2,969	
現預金	10,642	12,510	+1,868	利益増加による
在庫	4,836	5,755	+918	売上拡大による
固定資産	7,736	8,105	+369	
有形固定資産	4,890	5,158	+268	国内外設備投資による
資産合計	31,551	34,891	+3,339	
負債	11,088	11,145	+56	
有利子負債	-0	-	-	
純資産	20,463	23,745	+3,282	
利益剰余金	15,583	17,859	+2,275	利益増加による
自己株式	▲ 228	▲ 901	▲ 673	804 百万円の自己株取得
為替換算調整勘定	736	2,320	+1,584	円安進展による
負債純資産合計	31,551	34,891	+3,339	

注：百万円未満は四捨五入

■今後の見通し

引き続き原価低減や円安効果などが寄与、増収増益となる見通し

(1) 2016 年 3 月期の業績見通し

2016 年 3 月期の連結業績は、売上高が前期比 2.9% 増の 41,000 百万円、営業利益が同 5.2% 増の 4,200 百万円、経常利益が同 3.0% 増の 4,300 百万円、当期純利益が同 3.3% 増の 2,800 百万円と増収増益となる見通し。日系自動車メーカーの生産は前半厳しさが続くものの、後半以降は新規受注の売上貢献や、原価低減に加え円安効果も寄与する見込み。円安効果は 1 ドル 115 円を前提に売上高で 900 ～ 1,000 百万円、営業利益で 100 百万円程度の増額要因になるとみている (1 ドル当たり 1 円の円安で売上高 100 百万円、営業利益 10 百万円のプラス要因)。

2016 年 3 月期連結業績見通し

(単位：百万円)

	15/3 期		16/3 期		
	実績	対売上比	会社計画	対売上比	前期比
売上高	39,849	-	41,000	-	2.9%
営業利益	3,993	10.0%	4,200	10.2%	5.2%
経常利益	4,176	10.5%	4,300	10.5%	3.0%
当期純利益	2,710	6.8%	2,800	6.8%	3.3%

(期中平均、対円)

	為替レート		
	15/3 期	16/3 期	前期比
米ドル	105.85	115.00	8.6%
タイバーツ	3.26	3.50	7.4%
ポンド	174.21	175.00	0.5%
中国元	17.23	18.50	7.4%
メキシコペソ	7.96	8.00	0.5%

セグメント別業績見通し

(単位：百万円)

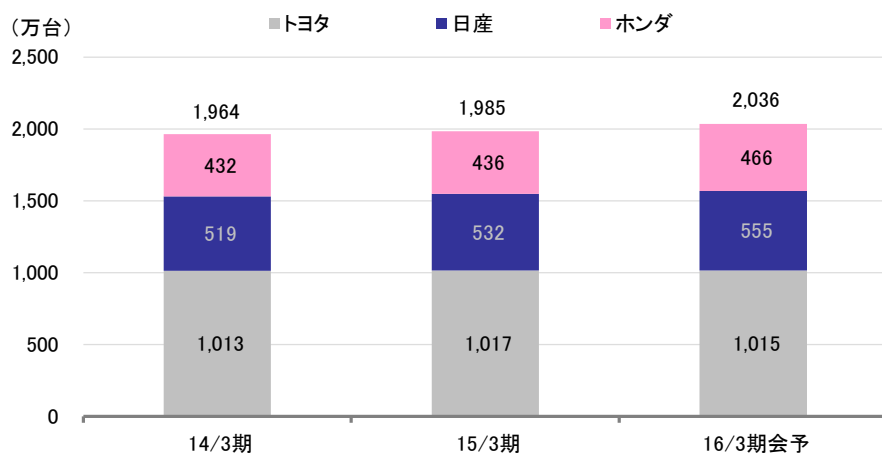
	売上高			営業利益			営業利益率	
	15/3 期	16/3 期	前期比	15/3 期	16/3 期	前期比	15/3 期	16/3 期
日本	21,750	21,150	-2.8%	2,037	2,040	0.1%	9.4%	9.6%
米州	9,509	10,700	12.5%	975	1,140	16.9%	10.3%	10.7%
アセアン	2,881	3,100	7.6%	345	390	13.0%	12.0%	12.6%
中国	3,519	3,800	8.0%	505	550	8.9%	14.4%	14.5%
欧州	2,190	2,250	2.7%	209	220	5.3%	9.5%	9.8%
(内部調整)				-79	-140			
合計	39,849	41,000	2.9%	3,993	4,200	5.2%	10.0%	10.2%

地域別で見ると、国内は売上高が前期比 2.8% 減、営業利益が同 0.1% 増を見込む。国内自動車生産台数の減少により売上高の減収傾向は続くものの、原価低減や業務効率の向上などにより営業利益は前期並みを維持する見通し。

海外は、米州の堅調な推移、ASEAN は回復の兆しが見られることに加えて、新規受注の獲得、円安効果などにより増収増益を見込んでいる。このうち米州に関しては前期後半から本稼働したメキシコ販社がフル寄与することも貢献する。ASEAN や中国市場に関しては足元、厳しさが続いているものの、下期は ASEAN で新規大型案件の売上寄与が見込まれるほか、中国でも採用車種の増産が計画されており、通期では現地通貨ベースでも増収増益となる見通しだ。

同社の主力顧客である日系大手自動車 3 グループの 2016 年 3 月期の販売台数計画は、合計で前期比 2.8% 増の 2,041 万台となっている。足元は北米が堅調な一方で、中国や国内での下振れ懸念があるものの、為替が想定より円安に進んでいることから、利益ベースでは会社計画を達成できるものと弊社ではみている。

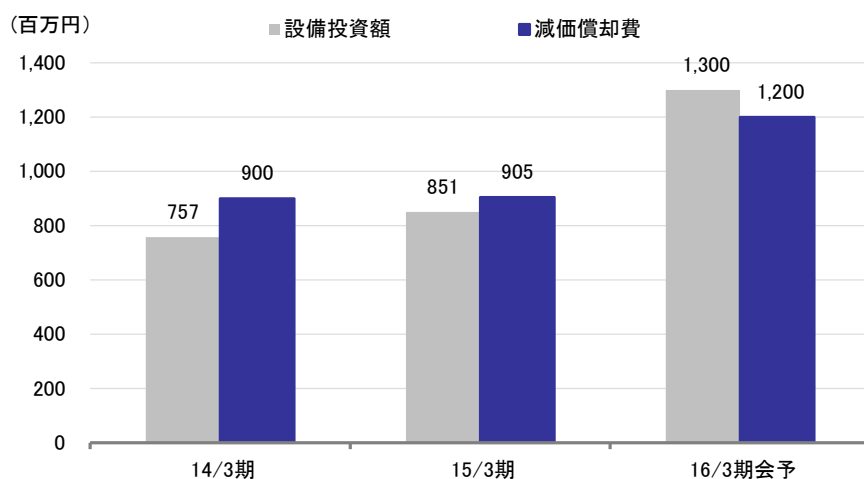
日系大手自動車3社グループの販売台数推移



出所: 会社公表値

なお、2016 年 3 月期の設備投資計画は前期比で約 5 割増となる 1,300 百万円を計画している。このうち、国内は 560 百万円（前期 360 百万円）となり、主に基幹情報システムの更新で 200 百万円、子会社の設備更新で 200 百万円を予定している。一方、海外は 740 百万円（前期 491 百万円）で、主にタイ子会社の能力増強投資に 200 百万円、米子会社の設備の増強投資に 100 百万円を予定しているほか、米国での製造機能強化のための費用を見込んでいる。

設備投資、減価償却費の推移



「ファブレス&ファクトリー」を基盤に更なる成長を目指す

(2) 成長戦略

同社では今後も「ファブレス&ファクトリー」を基盤としたグローバルでの事業体制強化や独自技術開発による製造基盤の構築や協力企業との関係強化による競争力の一段の向上により、更なる成長を目指していく方針だ。

グローバル事業体制の強化としては 2014 年にメキシコ販売子会社が本稼働したほか、2015 年 4 月には台湾に調達拠点となる子会社を設立するなど海外でのファブレス機能の強化を進めている。また、米国では製造機能強化の計画もあり、顧客である日系自動車メーカーのグローバル展開に対応していく。

独自技術開発品では、圧入プロジェクション接合技術を用いた部品の需要拡大が今後期待されている。自動車の軽量化やコストダウンに寄与する同技術を用いた部品の採用は着実に広がっており、売上高は 2015 年 3 月期の 1,500 百万円から、2016 年 3 月期は 2,000 百万円強が見込まれ、中期的には 3,500 ~ 4,000 百万円程度が視野に入っている。同製品に関しては共同開発先であり、前期に資本参加した（株）テーカーで量産しているが、今後は海外での展開も視野に入れており、その他の協力企業へ技術供与も含めた資本参加によるグループ会社化を進めていく可能性があるとしている。

また、各製造子会社では需要に合わせて生産能力の拡大を進めていくほか、独自加工技術の開発による原価率の改善などにも取り組んでいく。現在、売上高の約 2 割が自社グループ製造品となっているが、将来的には海外製造拠点の拡大に伴い自社グループでの製造比率が上昇していくことが予想される。ただ、ここ最近の円安の進展によって、海外では現地生産よりも国内からの輸出で対応したほうがコスト的に有利になるケースが出始めているのも事実で、今後の海外製造基盤の強化に関しては、為替動向をにらみながら慎重に進めていく方針となっている。

ターゲットとする顧客に関しては従来と変わらず、日系主要自動車メーカーが中心となる。既存顧客における取引シェアを拡大していくだけでも成長余地が大きいためだ。また、営業利益率では前期に 10% 台に乗せているが、今後も売上規模が拡大していけば、販管費率の低下によって、もう一段の上昇が期待される。

なお、M&A 戦略に関しては、製造機能の強化や販路拡大などのシナジー効果が期待できる企業を対象に検討しているが、当面は協力企業との関係強化を目的とした資本参加のようなケースになるとみられる。

■ 同業他社比較と株主還元策について

株価は 1 年で 1.5 倍程度上昇、引き続き安定成長企業として注目

(1) 同業他社比較

同社の株価は好調な企業業績を背景に、直近 1 年間で 1.5 倍程度の上昇を見せているが、2015 年に入ってからでは 1,600 円を挟んだ動きが続いている。企業価値の観点から同業他社と比較する。同社のように「ファブレス&ファクトリー」のビジネスモデルで展開している企業はないものの、同社が主に取り扱うエンジン回りの電装部品メーカーで、企業規模も中堅クラスとなる 10 社を同業他社の比較対象として選んでいる。

中堅エンジン関連自動車部品上場企業 株価指標一覧

コード	市場	企業名	時価総額	株価	予想 PER	PBR	予想 ROE	予想 ROA	予想配当利回り	予想経常利益率
			(百万円)	(円)	(倍)	(倍)	(%)	(%)	(%)	(%)
7628	東 1	オーハシテクニカ	23,405	1,541	8.4	1	12	12.3	2.50%	10.50%
6461	東 1	日本ビストンリング	17,423	212	11.6	0.6	4.9	3.1	2.80%	4.00%
6319	東 1	シンニッタン	15,178	581	12.1	0.5	4.4	5.5	2.40%	10.50%
7299	東 2	フジオーゼックス	10,972	534	11	0.5	4.3	4.4	1.90%	7.10%
7235	東 2	東京ラヂエーター製造	9,712	675	8.1	0.5	6.6	6.2	1.20%	6.10%
7264	JQS	ムロコーポレーション	8,352	1,350	6.9	0.7	10.6	10.3	2.20%	9.80%
5994	東 2	ファインシンター	7,617	346	10.9	0.4	4.5	3	2.90%	3.00%
7271	東 1	安永	6,843	572	n.m	0.6	-0.7	0.9	1.40%	0.90%
6467	JQS	ニチダイ	6,680	738	7.5	0.6	9.4	8.3	2.70%	8.60%
7214	東 1	GMB	6,452	1,238	12.9	0.2	2.2	2.3	3.20%	2.20%
10 社平均値			89,228		10.9	0.5	4.4	4	2.30%	4.50%

(注) 株価は、2015/7/10 終値。株式数は直近期末発行済み株式数（自己株式除く）で算出。予想は今期会社計画値。ROE、ROA は前期末の自己資本、総資産で算出。

まず、今期の予想 PER では 10 社平均で 10.9 倍であるのに対し、同社は 8.4 倍となっており若干平均を下回った水準となっている。一方で、PBR（株価純資産倍率）に関しては平均が 0.5 倍であるのに対して、同社は 1.0 倍と純資産並みの株価評価となっている。ROE（株主資本利益率）で 12.0% と平均の 4.4% を大きく上回っているほか、経常利益率でも 10.5% と平均の 4.5% を上回るなど、同社の資本効率や収益性の高さが評価されているものと考えられる。

今後も「ファブレス&ファクトリー」という独自のビジネスモデルと独立系という強みを活かした事業展開により、業界平均を上回る成長が期待できること、また、無借金経営で好財務体質であり、不況抵抗力が強いことなどから、引き続き安定成長企業として注目されていくものと予想される。

安定配当を基本に業績拡大とともに増配、今期は 4 期連続増配予定

(2) 株主還元策

株主還元策としては、配当金に加えて株主優待制度を導入している。配当金に関しては安定配当を基本としつつ、配当性向 20% 程度を目安に業績の拡大とともに増配していく方針で、2016 年 3 月期の 1 株当たり配当金は前期比 5 円増配の 38.0 円（配当性向 20.7%）と 4 期連続の増配を予定している。



オーハシテクニカ

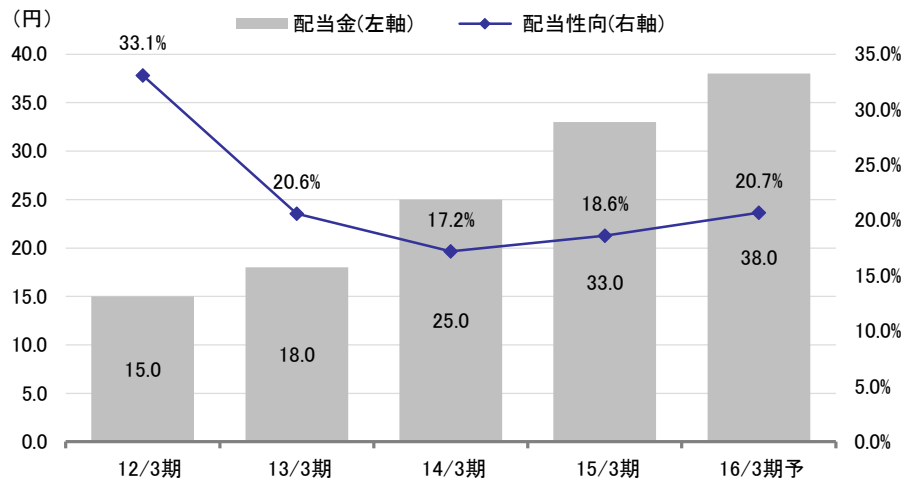
7628 東証 1 部

2015 年 8 月 7 日 (金)

また、株主優待では 100 株以上保有の株主に対して、保有数に応じた枚数のおこめギフト券を年 2 回 (3 月、9 月末日の株主) 贈呈している。100 株保有の株主に対しては 1 枚 (1kg、440 円相当) を贈呈しているが、3 年以上継続保有の株主に対してはさらに 1 枚追加しており、長期保有の株主づくりに注力しているのが特徴だ。100 株を 3 年以上保有している株主だと、現在の株価水準 (7 月 10 日時点、1,541 円) で見た総投資利回りは 3.6% 程度となる。

その他、同社では企業価値の向上を目指すなかで、ROE (自己資本利益率) や DOE (自己資本配当率) を重要な経営指標として位置付け、その向上に取り組んでおり、自己株式取得についてもその一環として、機動的に実施していく方針を示している。

1株当たり配当金と配当性向



連結損益計算書

(単位: 百万円)

	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期	16/3 期予
売上高	31,504	34,768	39,162	39,849	41,000
売上原価	24,891	27,588	30,177	30,352	-
売上総利益	6,613	7,180	8,984	9,497	-
販管費	5,080	5,076	5,359	5,504	-
営業利益	1,532	2,103	3,625	3,993	4,200
営業外収益	88	102	151	189	-
営業外費用	93	107	30	7	-
経常利益	1,527	2,097	3,746	4,176	4,300
特別利益	1	159	3	5	-
特別損失	32	2	63	2	-
税引前利益	1,496	2,254	3,686	4,178	-
法人税等	786	895	1,388	1,457	-
少数株主持分	2	-6	5	10	-
当期純利益	708	1,364	2,291	2,710	2,800
伸び率 (%、前期比)					
売上高	-3.3	10.4	12.6	1.8	2.9
営業利益	-19.5	37.2	72.4	10.2	5.2
経常利益	-19.5	37.3	78.6	11.5	3.0
当期純利益	-29.5	92.6	67.9	18.3	3.3
マージン (%)					
売上総利益	21.0	20.7	22.9	23.8	-
販管費	16.1	14.6	13.7	13.8	-
営業利益	4.9	6.0	9.3	10.0	10.2
経常利益	4.8	6.0	9.6	10.5	10.5
当期純利益	2.2	3.9	5.9	6.8	6.8

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ